



森の“落としもの”を楽しもう！

秋が深まり、美しく赤や黄色に色づいた森を散策するのはとても気持ちがいいですね。

秋の森の楽しみ方は紅葉狩りだけではありません。あちらこちらへ目を向けて探検してみましょう！

足元に落ちている木の実や鳥の羽根、きれいな石などをみつけながら歩けば気分は宝探しです。



ドングリがたくさんあると嬉しくなります。

動物の食事の痕跡もみつかります。リスが割っ



て食べたクルミの殻が両方ともみつければラッキー！マツボックリをかじってできた“エビフライ”を今年によく見かけます。

色とりどりににぎやかだった森が秋から冬へ向かうと寂しい感じになりますが、緑におおわれていたときには気づかないものも見えてきます。



鮮やかな緑色のまゆ クモの卵が入った袋が3つも！

急ぎ足では見過ごしてしまう不思議なものが森の中にたくさん隠れています。ゆっくり歩いて素敵な“宝もの”をみつけてみませんか。(り)

樹木の常識 'ウソ・ホント'

■その1 「樹の年輪」

「山で道に迷ったら切り株の年輪を見ろ・・・年輪幅の広い方が南・・・幹は日が良く当たる南側の方の成長が良いから太くなる」と教わった記憶があります。しかしこの常識と思っていた「年輪で方角がわかる」は間違いです。



同じ根から出た2本の幹の切り株。年輪幅の広い方向(黄色矢印方向)がそれぞれ違います。中央のコンパスの示す南方向(赤矢印方向)と年輪の幅の広い方向とは一致していません。

では年輪の幅の違いはなぜ出来るのでしょうか？それはアテが関係します。アテとは写真-1の曲がった幹の部分と言います。



写真-1
曲がった部分がアテ

平坦なところで直立し四方に枝が伸びた木の年輪の幅はほぼ均等です。木は自分の幹が曲がったとき、それを修正しようとする性質があります。それにより年輪の幅に差がでるのです。山の木は平坦な場所だけに育つわけではありませ

せん。急な斜面で育つことのほうが多く、また強い風が吹く場所であったり、周りの樹木の影響で枝を均等に伸ばすことが出来ない、また根を均等に伸ばすことができないなど色々な環境の中で自分が倒れないように、丈夫な体にする必要があります。そのために力のかかるアテ部分にしっかりとした筋肉を付ける。それが年輪の幅の違いになります。その筋肉の付け方ですがスギ・ヒノキなど針葉樹とコナラなどの広葉樹では力のかかり具合が反対です。年輪の広い方向も全く逆になる性質を持っています。

針葉樹



左側が広がる



広葉樹



右側が広がる



針葉樹と広葉樹の年輪の幅。広がる方向が違う。

木が傾くと針葉樹では傾いた幹を押し上げようとする力が働き、傾いた側の年輪幅は広がります。それとは逆に、広葉樹では傾いた反対側から傾いた側を引っ張る力が働き、傾いた逆の年輪幅が広がります。なぜ針葉樹と広葉樹が違うのかは、はっきりわかりません。年輪の幅の違いは方角を示すのではなく、力のかかった(踏ん張った、引っ張った)筋肉の大きさを示しているのです。

■その2 「樹液の流れる音」

「樹に耳を当てると樹液の流れる音が聞こえる」



コルク質の樹皮。耳を当ててみましたが、音はほとんど聞こえません

その音は樹液の流れる音ではありません。樹液の流れは2つあります。根から吸い上げた水分が上がっていく流れと、出来た栄養が上から降りてくる流れです。樹液は基本的に根から上がる流れのことを言いますが、そのスピードはとても遅く、浸透圧と毛細管現象で樹液が上昇するのでジワっとした動きです。スギの樹液の場合は1時間に数十 cm しか移動しないため音が出る程ではありません。

耳を当てると聞こえる音は？それは自分の体から発する音や、枝や葉のざわめき音、風、地面の振動など様々な音が混ざった音がしているのです。

これまでは樹液の流れる音だと思っていました。ちょっとがっかりです。(あ)





青葉の森むかし・いま・みらい②



現在は「都市計画緑地」（平成 17 年 9 月 30 日指定）として永久に保全されることになった青葉の森緑地（以下「青葉の森」）ですが、戦後から現在まで森の様子はどのように変化してきたのでしょうか。

昭和 20 年代、青葉の森周辺は落葉広葉樹林が広がる管理された明るい里山でした。今の散策路を歩くと二股、三股に株立ちしたコナラの木に出合いますが、これらは薪炭林（しんたんりん）として間伐を繰り返してきた名残りです。“萌芽更新（ほうがこうしん）” といって切り株から伸びた芽が新しい幹に生長することで森を常に若い状態に保つ技術です。園内では二股に分かれた広葉樹を見つけるのは容易なため、全域に渡って薪炭林として利用されてきたことがうかがわれます。



二股に株立ちしたコナラ

しかし、昭和 30 年代に入り、薪・炭から化石燃料への燃料革命、昭和 40 年代の木材輸入自由化により国内の里山放置が加速。人々は森の価値を見失い、放置または造成という関係になっていきます。現在の「森の花園」西側斜面も昭和 50 年頃に皆伐されたことが当時の航空写真から判明しました。現在、その場所にはヤナギの仲間やハンノキ、アカマツなどが多くみられますが、これらは崩壊地や伐採跡地など環境が落ち着いていない場所に最初に生えてくる種類なので、皆伐後に生育し始めたものだと思われます。

平成 6 年に「青葉の森緑地」として開園した頃からは、マツノザイセンチュウ（マツクイムシ）によりアカマツが枯れ始めました。アカマツが枯れて林の中が明るくなると灌木やササ類が一斉に生長します。手入れされなくなった広葉樹林もササ類や灌木が茂り、森全体が薄暗くなっていきます。

平成 27 年頃からは、間伐が行われなため高齢・大木に育ったコナラやミズナラに急速に“ナラ枯れ”が拡大しています。ナラ枯れを引き起こす菌を媒介するカシノナガクイムシは、直径 10cm 以下の細い（若い）ナラ類では繁殖しにくいことがわかっていますが、現在の青葉の森は高齢の大木化したナラ類ばかりで病気が蔓延しやすい状態になっており、このままでは園内のナラ類は将来ほとんど枯れてしまうかもしれません。その枯れた株からはカエンタケという猛毒のキノコが発生しやすいので、数年先にはカエンタケが普通にみられるようになるのではと危惧しています。



クイムシに内部を食べられた株（円内はカエンタケ参考写真）

このように人の手が加えられなくなったことで薄暗く、高齢化・大木化して病気が蔓延した状態の森林になっているのが現在の青葉の森です。

森林が燃料や建材・肥料などの調達の間から、市民の憩いの場や環境教育の場へと価値観が変化してきている今、これからの青葉の森はどのような姿の森にしていくのが望ましいのでしょうか。ここは百万都市の近傍に残された貴重な森林。多くの市民の方に利用していただき、自然に触れ自然を守る心を育む場所にしたいと思っています。そのためには安全を確保し安心して利用していただける環境を整えていくと同時に、様々な生き物の住処を保全していくことが大切だと考えられます。そのための適切な管理とはどのようなものか、ぜひ皆さんも考えてみて下さい。（干）



*** 春夏に開催したイベントを紹介します ***



①春の外あそび森あそび(4/17) ②葉っぱが変身!紙漉き体験(9/25) ③どんぐりとあそび!(9/18) ④癒しの空間 私だけの手のひら苔庭(7/17)
⑤親と子がそれぞれ楽しむ新緑の森(5/4) ⑥手作り木工カトラリー(6/25) ⑦ここから新規体験メニュー ⑧レンジャー手製の銘木ピース ⑨木の枝ピースアクセサリ ⑩押し花のしおり

青葉の森では四季を通して様々なイベントを開催しています。春夏に実施したイベントの中からピックアップしてタイトルだけでは分からないその中身をご紹介します!

まずは青葉の森の散策路をゆっくりと時間をかけて歩く自然観察&体験会「大人の森あるき」。上半期は春4月24日(日)、初夏5月29日(日)、夏9月4日(日)に実施しました。毎回季節に合わせてコースや内容を変えており、行程が当日にならないとわからないミステリーツアーのような趣で何度でも楽しめます。毎回定員が申込み開始当日~数日で埋ってしまう人気イベントです。

未就学~小学生の親子を対象とした催しもたくさん開催しました。青葉の森らしい外遊びや生き物とのふれあい、工作など初めて出会うお友達と一緒にいろいろなことにチャレンジ!今後もどんどん企画してゆきますので興味のあるタイトルを見かけたらぜひ参加してみてください。

*** 番外編 中学生が職場体験にやってきました! ***

夏休みが終わった8月最終週、青葉の森で中学生の職場体験活動を行いました(仙台市立八木山中学校、仙台市立第二中学校)。2日~3日間にかけて散策路・竹林管理、イベントの試作や園内自然情報展示作製などを体験してもらいました。(k)



初夏の「大人の森あるき」



森のおさんぽをする子供たち



職場体験(草木染イベント試作)



職場体験(第二中生が作製した園内情報)

イベントの詳細や申込み日・方法などは変更になる場合がございます。必ず毎月発行の「市政だより」をご覧のうえお申し込み下さい。

イベント名	日時	内容	対象・定員	申込み
森でアート「秋の森の色あそび」	10月30日(日) 午前10時~正午	秋の色を素材にして森を楽しむ。	小学生以上の子供と保護者 15名(先着)	10月6日午前9時から 電話
大人の森あるき	11月5日(土) 午前10時~午後2時半	秋の森を野花を愛でながら散策。	高校生以上 15名(先着)	10月7日午前9時から 電話
キーホルダープレゼント	11月6日(日) 午前9時~	クイズに参加された方に間伐材のオリジナルキーホルダーをプレゼント。	どなたでも 限定200個。1人1個まで。	申込み不要
秋の絵本と落ち葉あそび	11月6日(日) 午前10時~正午	絵本の読み聞かせと自然の中での遊びや観察を体験。	3歳以上の未就学児と保護者。 定員なし	申込み不要
はしってかくれて「森の忍者ごっこ」	11月13日(日) 午前10時~12時半	森の中で忍者になり走ったり隠れたりして遊ぶ。	4歳以上の未就学児と保護者 15名(先着)	11月6日午前9時から 電話
めざせ忍たま「森の忍者あそび」	11月20日(日) 午前10時~12時半	森の中で忍者になって忍術遊びをする。	小学生以上の子供と保護者 15名(先着)	同上
森からかりるクリスマスツリー	12月4日(日) 午前10時~午後2時	モミの幼樹を鉢に植えミニクリスマスツリーをつくる。	小学生以上の子供と保護者 15名(先着)	11月8日午前9時から 電話

情報誌 季刊「青葉の森から」第42号 平成28年10月1日発行
発行:(公財)仙台市公園緑地協会・企画編集:青葉の森管理センター

青葉の森管理センター

開館時間:午前9時~午後4時30分 月曜年末年始休館

〒980-0845 青葉区荒巻字青葉 260

TEL:022-263-2101 FAX:022-263-2102

地下鉄東西線「青葉山駅」から徒歩15分

<http://www.sendai-park.or.jp/web/info/aobanomori/index.html>

